

## 評価結果概要表

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3870400417
法人名	医療法人 青峰会
事業所名	アクティブライフ松柏
所在地	愛媛県八幡浜市松柏甲728-1
自己評価作成日	平成24年10月15日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

一人ひとりのペースに合わせて出来る事やしたい事を支援している  
特に午前中のレクリエーションの時間では、得意な手作業をされたり、数人で一緒に出来る事を職員も一緒に入り楽しめるようにしている  
また、中学校が隣接しているため、福祉体験など年に数回の交流がある

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成24年11月28日

●今年、「ふるさとに帰ろう」を計画し、利用者が元住んでいた所へ出かけてみることを支援された。利用者は、風景を懐かしみ、「老舗和菓子店」「明治橋」「元産婦人科」等、以前の様子やエピソードを話してくださり、職員は驚かれたようだ。ご自宅には入れない状態となっているような場合もあるが、職員は、「その時その時の生き生きとした感情に触れることができた」ことを実感されていた。  
●職員は、利用者に、「20歳の頃は何をしてた？」「結婚は見合い？恋愛？」等、話しかけを工夫して、個々のことを具体的に知ることに努めておられる。利用者によっては、お話をうかがっているうちに、昔の苦労を思い出して涙をいっぱい流される方もあったようだ。利用者から聴いた話をご家族に伝えると、さらに深い情報が得られることもある。利用者やご家族から得た情報は記録され、3ヶ月毎に書き直すようにされている。

### V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23, 24, 25) ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9, 10, 19) ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18, 38) ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2, 20) ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4) ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11, 12) ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目：49) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30, 31) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価及び外部評価結果表

## サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

### 【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

### ※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含まます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含まます。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含まます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 アクティブライフ松柏

(ユニット名) すだち

記入者(管理者)  
氏名 広瀬 照美

評価完了日 24 年 10 月 15 日

# 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>I.理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 理念を事務所、廊下、リビングの目につく所に掲示して、常に意識できるようにしている 家庭的な雰囲気の中で、その人らしく暮らしてもらえるよう実践につなげている	
			(外部評価) 「地域の中で、その人らしく暮らしながら人間の尊厳を大切に生きていく」「家庭的な雰囲気の中でゆっくり、楽しく、いつも一緒にをモットーとして自立支援を行う」と、2項目の理念を揚げておられ、特に、「尊厳を大切にされた支援」に力を入れ取り組みをすすめておられる。利用者自身で意思表示がままならなくなっても、職員は、ご本人が選んだり決めたりできるような場面作り心がけ、ご本人の目の動きや表情から少しでも意思を汲み取ろうと努力をされている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	(自己評価) 夕涼み会を年に一回開催して、地域の方との交流をはかっている 近くの中学生が福祉体験に年数回来て交流もしている また、地域ボランティアの方に敬老会、クリスマス会などに来ていただき、歌や手品など披露してもらい楽しんでいる しかし、日常的な交流までには至っていない	
			(外部評価) 恒例となった「夕涼み会」は、近所の方から「今年はいつするの？」と聞かれほどになり、今年は、金曜日に開催したことで、予想以上の参加があったようだ。隣の中学校からは、1日福祉体験を継続して受け入れておられ、さらに、生徒がボランティアにも来てくれて、利用者と一緒にゲームをしたり似顔絵を描いてくれたりしながら、一緒に過ごされている。敬老会やクリスマス会にも、歌や演奏の地域ボランティアの方が来られている。運営推進会議時には、地域行事の案内をいただくが、現在は、利用者の状態のこともあり、参加することが難しい場合も多いようだ。公民館行事の「七草がゆ」のお接待の日には、公民館長が七草がゆを事業所に届けてくださる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 近所の中学校の福祉体験を受け入れたり、地域の方との交流をはかるため、夕涼み会を開催して認知症について理解してもらえるように努めている	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>運営推進会議でホームの活動状況や行事等の報告、行事見学を行っている 会議ででた意見は、スタッフ会議で話し合いサービス向上に活かせるよう努めている</p> <p>(外部評価)</p> <p>4月の会議時、避難訓練の報告を行った際には、「あまり手はずを整えず、災害は突発的に起きるということを念頭に置いて実施してはどうか」という意見をいただき、11月には、いきなり訓練を行ってみることを試された。その結果、職員がてきぱき動けたことが確認できて、安心につながったようだ。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>月に一度さわやか相談員さんが来られ、気がついた事など意見をいただいている</p> <p>(外部評価)</p> <p>市主催の勉強会には、年3回、職員が2名ずつ参加し、学んだことを後日、スタッフ会時に他職員に周知されている。事業所の事故報告や防止対策等についてアドバイスをいただくこともある。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>身体拘束の研修に参加して、スタッフは正しく理解できていると思う 玄関の施錠はしていないが、二階の階段出入口は安全のため、取り外しができる柵をつけている</p> <p>(外部評価)</p> <p>職員が利用者の動きを気付けるように、利用者の状態によっては、ベッド柵やドアに鈴を付け対応されている。ベッド柵を用いる場合は、設置する場所等をご家族と相談したり、ご家族等にも見ってもらったり報告しながら、ベッド柵をしなくても済むような支援に向けて取り組まれている。声を出して職員を呼ぶことが難しい方は、夜間、まくら元にタンバリンを置いて休まれている。</p>	

## 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価)  虐待の研修会にほとんどのスタッフが参加して学んでいる スタッフ全員注意を払い、虐待がおこらないように努めている	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価)  研修をうけ、制度について学んでいるが、利用している入居者がいないため、活用はできていない	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価)  契約時、入居者や家族等が安心して入居できるように、説明を行い疑問点があれば分かりやすく答え、理解、納得してもらえるよう努めている	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価)  面会時やケアプラン作成時に、要望がないか聞いている また、二ヶ月に一回アンケートハガキをだし、直接言いにくい事でも意見してもらえよう努めている でた意見はスタッフ会議で話し合い、よりよいホーム作りにかかしている  (外部評価)  家族会は、年1回行なっておられたが、「ご家族にもっと参加していただきたい」という思いを込めて、年2回開催することに取り組まれている。前回の家族会時には、食事が済むと帰ってしまうご家族も見られたため、今回から先に意見をうかがい、その後、食事できるようすすめ方を工夫された。意見交換の場では、「入居してから状態が低下した」というご家族や、「落ち着いたし、よくなった」という感想も聞かれ、ご家族同士の意見交換の機会になっている。ご家族からいただいた意見の中から、今月の行事を入口のドアに貼って、ご家族の来訪時に分かるよう取り組まれた。ご家族に「面会名簿」をお見せしたり、口頭で面会者を報告されている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価)	
			月一回スタッフ会を開催して、管理者は意見や提案を聞く機会を設けている	
			(外部評価)	
			毎月のスタッフ会で、シーツ交換やトイレ掃除を行う時間や外出の予定等について、勤務の効率がよくなるよう、意見を出し合っておられる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価)	
			法人内に人事考課制度、登用制度がある 年に一回、異動希望調査が行われているが、もう少し評価してもらえたらもっと向上心をもって働けるのではないかと思う	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価)	
			法人内外の研修を業務中に受けられるように勤務を組み受講している	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価)	
			研修会に参加したり、他の施設の運営推進会議や行事に参加する事で情報交換を行っている 良い取組みについては参考にするなど、質の向上に役立っている	
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価)	
			サービス開始前に管理者が面会を行い、不安や要望などを聞いている 困っている事は、職員みんなで話し合い、安心してホームに入居してもらえるように努めている	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 家族の不安、要望に耳を傾け、安心して利用してもらえるような関係づくりに努めている ちょっとした事でも言ってもらえる関係づくりをめざしている	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 新規入居者の管理を法人内の病院内でしており、必要な支援を見極めた上で、グループホームでの支援を必要とする方が入居してきている 事前に入居予定の方の様子や状態をみて、本人や家族の話を聞いた上で受け入れをしている	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 役割を分担して、できる事、得意な事を活かせる場作りをして、職員と一緒に作業を行っている	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 面会時に日常の様子を伝えたり、用事等で電話を掛ける時、遠方でなかなか会えない方には、利用者とかわり家族と話をしてもらえる場を作っている 月に一度、写真入りで健康状態、活動内容を報告して、家族の方にホームの様子を把握してもらっている	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 談話の中で昔の話を聞いたりしている 友人、知人が来所された時には、お茶などをだして、ゆっくり過ごしていただけるよう努めている 家族の協力がなければ、馴染みの人や場所との関係継続は難しい (外部評価) 今年は、「ふるさとに帰ろう」を計画し、利用者が元住んでいた所へ出かけてみることを支援された。利用者は、風景を懐かしみ、「老舗和菓子店」「明治橋」「元産婦人科」等、以前の様子やエピソードを話してくださり、職員は驚かれたようだ。ご自宅には入れない状態となっているような場合もあるが、職員は、「その時その時の生き生きとした感情に触れることができた」ことを実感されていた。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) できる事をできる人と一緒に行い、得意なレクリエーションを楽しみながら、利用者同士関わりがもてるように支援している 利用者同士の関係がうまくいこう、食事の席を決め、コミュニケーションがとりやすいように工夫している	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 他の施設に移られた方には、時々会いに行き、家族の方と出会った時に様子を伝えたりしている	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 会話の中で思いをくみとり、希望にそった生活を支援できるように努めている 困難な場合は今できる事を伝え、納得してもらえるようにしている (外部評価) 職員は、利用者に、「20歳の頃は何をしてた?」「結婚は見合い?恋愛?」等、話しかけを工夫して、個々のことを具体的に知ることに努めておられる。利用者によっては、お話をうかがっているうちに、昔の苦労を思い出して涙をいっぱい流される方もあったようだ。利用者から聞いた話をご家族に伝えると、さらに深い情報が得られることもある。利用者やご家族から得た情報は記録され、3ヶ月毎に書き直すようにされている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居時、本人や家族から生活歴、生活環境など聞き取りを行っているが、ホームでの生活の会話の中からも情報収集できるように努めている	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) その方の希望を一番に優先し、その方に合った過ごし方をさせていただき、はり合いのある生活を送れるよう努めている 会話、表情、行動などから、状態を観察し現状の把握を行っている	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価) 家族や本人の希望を聞き、スタッフ間で話し合いを行っている 安心して暮らせるような支援ができるように努めている</p> <p>(外部評価) 「何かすることない？」と絶えず尋ねてくださる利用者の方がおられ、その方に「できることをお願いする」ように、介護計画を立てておられる。転倒の危険がある方には、防止策として車いすのブレーキ確認、糖尿病で悪化が心配される方には、食事量の目安等が計画に盛り込まれていた。利用者によっては、居室に介護計画を綴じて置き、利用者にお見せする等されている。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価) 個別に介護記録を記入して、問題点や気づいた事を申し送り時スタッフに伝え、情報を共有している</p>	
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 家族や利用者に要望を聞き、サービス支援をしている 一人ひとりに合わせた受診、買い物など、ニーズに対応できるように努めている しかし、買い物などは全体のADL低下、高齢化などですぐに対応できない場合が多くなってきている</p>	
29		<p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価) 地域の行事等に参加したり、ホームでの行事では、ボランティアの方に来ていただき楽しみのある暮らしを支援している</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)	
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価)		
				往診で対応していただける医師が主治医となっている 母体が病院のため、つながりがあり毎日の様子を主治医と母体の病院にFAXで送り、急変時の対応に活かしている	
			(外部評価)		
				利用者は、協力医である主治医の往診を受けておられ、他科受診は、ご家族が受診に付き添われたり、付き添えない場合は、介護付きタクシーを利用して受診されている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価)		
				週に一回、医療連携看護師の訪問があり、気がついた事を相談して、適切なアドバイスを受けている	
			(外部評価)		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価)		
				母体以外の病院の場合、家族から情報を得ることが多い	
			(外部評価)		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価)		
				入居時にホームでできる事について説明はしているが、実際は重度化した時に今後について詳しく話し合いを行う事がほとんどである	
			(外部評価)		
				ご家族へは、入居時の説明以外に、母体病院が「回復期病棟」になったことで、受け入れ状況が変更されたことを伝えた結果、2名のご家族から「事業所での看取り」の希望があったようだ。	
				終末期のあり方については、機会をみながら早い段階から利用者の希望を探ってみてほしい。利用者やご家族の希望に沿った終末期支援に取り組めるように、体制作りをすすめていかれてほしい。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価)  急変や事故発生時に備え、消防署での救命講習は、ほとんどのスタッフが受けている	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価)  年に二回避難訓練を行い、そのうち一回は消防署の方や地域の方にも来ていただき、訓練の様子をみて意見をだしている	夜間や地震等のいろいろな場面を想定した避難訓練を繰り返し行い、利用者、職員の安心と安全のためにも課題の解決に向けて取り組んでいかれてほしい。さらに、日頃の地域とのつきあい等から、地域との協力体制作りに向けた取り組み等もすすめていかれてほしい。
			(外部評価)  4月の津波を想定した訓練時には、利用者を避難させる方法について消防署から「情報収集をしながら、2階へ避難するか中学校へ避難するかを判断」するようアドバイスがあった。火災発生の場合、管理者は「2階から降りる手段や場合によってはフェンスを乗り越える手段の検討も必要」と話しておられた。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価)  言葉かけには十分注意を払い対応している 表情や態度にも気をつけている	
			(外部評価)  接遇の研修に加え、ケアの現場で、職員の声かけの大きさ等、気になる時には話し合ったり、利用者に恥ずかしい思いをさせないよう、特にトイレ誘導時には注意されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価)  入浴時の洋服や、おやつのお菓子など、自分の好きな物を選んでいただいている また、会話の中から、思いを聞いたり感じたりしながら、本人の希望を遠慮なく言える関係づくりに努めている	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 一人ひとりの希望を聞き、体調をみながらできる事をして過ごしてもらっている	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 似合っている服を着ていれば、ほめたり逆に季節に合わない服を着ている場合は、一緒に選んで着替えてもらっている 二ヶ月に一度、美容師さんに来ていただき、好みの髪型にしている その人に合ったその人好みにおしゃれができるように支援している	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 一人一人の力量を把握して、もやしの根とりやお膳拭き等を手伝っていただいている 行事や誕生日には、利用者の食べたいメニューを取り入れ楽しんで食事をとってもらえるようにしている	
			(外部評価) 行事食として、「誕生日のお好みメニュー」、「敬老会」「クリスマス会」「外出時のお弁当」等を工夫されている。「パンは自分で手に持って口に運べる」等、利用者の持っている力を使いながら、職員は、介助したり見守りながら、できるだけ口から食べられるよう支援されている。又、とろみの粘度等、のみ込みの状態を見ながら調節されている。利用者は、お茶を入れたり、食事の準備や片づけを職員と一緒にやってもらえる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事量は毎回記録にとり、食事量が少ない場合は、食べれるもの(バナナ、プリン等)をとっていただいている 嚥下に問題がある方には、キザミ食やミキサー食にして提供している	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 一人ひとりの力量に合わせて口腔ケアをしてもらっている 週に一度は義歯洗浄を行っている 自分で磨かれる方の残存歯の清潔状態を、もう少し確認できるようにになればと思う	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 時間ごとにトイレ誘導を行い、なるべくトイレ内で排泄できるように支援している 一人ひとりの排泄パターンがわかるように排尿チェック表に記入している	
			(外部評価) ご自分でトイレに行ける方が少なくなり、時間誘導やチェック表を参考にトイレ誘導をされている。入院を機に、立つことが難しくなって退院される方が多く、立つ練習から始め、トイレで排泄できるような支援につながるよう取り組まれている。管理者は、「元の状態に戻るまでに入院期間と同じ位の日数が必要」と話しておられた。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 朝、牛乳を飲んでもらったり、ヨーグルトを食べてもらったりしている なるべく午前中はレクリエーションを通して運動をしてもらえよう支援している しかし、薬に頼ることが多い	
			(外部評価)	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) だいたい午後からの入浴で、三日に一回くらいのペースになっている 一人ひとりの希望やタイミングに合わせての入浴は、スタッフの人数、勤務体制から難しいように思う	利用者が気持ちよく入浴できるような支援について、設備のほかにも、職員で工夫できる点について話し合ってみてはどうだろうか。利用者や職員の負担感の軽減にも取り組みつつ、利用者それぞれの好みの入浴を楽しめるような支援にも努められてほしい。
			(外部評価) 一日に3人ずつ入浴するようになっており、利用者は週2回入浴するようになっている。介助が必要な利用者が徐々に増え、浴槽や洗い場、手すりの位置や入口の幅等、重度化への対応が難しくなっている現状のようで、入口ドアのレールが車いすの走行に差し支える点については、今後、法人内の全事業所が改修する予定となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 休みたい時に休んでもらい、一人ひとりの体調をみながら過ごしてもらっている	
			(外部評価)	

## 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 個別に処方箋を介護記録にファイルしており、薬の増減や中止、新たに処方があれば業務日誌に記入して、情報を共有している	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 一人ひとりが楽しいと思えることを把握して、それぞれに合ったレクリエーションや役割をすすめるように支援している レクリエーションでは、マンネリ化しているため、新しいことを考える必要がある	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 家族の協力があれば、その日の外出支援はできているが、職員だけでは難しい ADL低下により、一人の職員が一人の利用者と散歩に出かけるのが精一杯であるため人数は限られる 車での外出は安全上の問題で難しくなっている	
			(外部評価) 初詣・花見・紅葉狩り・買い物・フェリー見物等、大体月に1回は外出できるような機会を作っておられる。体調によっては外出が難しい方もおられるようだが、気候のよい時期には、ベランダで昼食を楽しまれたりされている。ご家族や職員と一緒に散歩して、近所の方とおしゃべりが弾む方もおられるようだ。「故郷に帰ろう」を計画し、個別に行きたい場所へ出かけてみる支援に力を入れて取り組まれている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 外出時、好きな物を選び、自分で支払いをされている方が数名いる お財布の中にお金が入っていないと心配になる方には、理解できなくてもお金を持って頂いている	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 手紙を書いて職員がポストに入れたり、電話をかけたい時に、職員がかけて本人が話しをされている	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 季節に応じて利用者の方に貼り絵や塗り絵を作成していた だき、リビングや廊下に飾っている 光がまぶしい時には、カーテンを利用するなどして、居心地よく過ごせるような工夫をしている	
			(外部評価) 静かな住宅街にあり、玄関に入ってドアを開けると正面の目につく高さに神棚がある。玄関脇には少人数で話せるスペースがあり、調査訪問時には、2階ユニットの利用者が降りて一休みされていた。居間には、利用者の作品やお出かけの写真が貼ってあり、来訪者にも、その様子が分かるようになっている。テレビを囲むソファではおしゃべりを楽しんだり、テーブルでは塗り絵や貼り絵に夢中になる利用者の様子もみられた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) リビングのテレビ近くにソファを置いたり、窓際にいすを置いて座って話ができるスペース作りをしている また、廊下にも座れる場所があり、利用者同士がそこで仲良く話をされている	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 本人の使い慣れた物を持ってこられたり、家族の方がその部屋に合う物を選んで持って来られている 来所されるたびに、母が好きだからと花を買って持ってこられ、部屋に飾られる方もいらっしゃる	
			(外部評価) 居室には、ベッドとタンスが備え付けられており、利用者は、テレビや身の回りの物を持ち込まれている。利用者の方によっては、落ち着かない状態の時、掲示物を一時期取り外したようなこともあったが、落ち着いてこられたため、ご家族の写真を目の高さに飾られた。ご本人は、指をさしながら眺めておられるようだ。壁に当たることで、皮膚が擦れる方もおられ、職員は壁にカバーを付けて対応されていた。新聞の番組欄で時代劇をチェックし、時間が来ると職員にテレビを点けてもらって楽しむ方もおられる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) トイレ、風呂場は分かるように表示しており、廊下には手すりを設置して、安全かつ自立した生活が送れるようにしている トイレの入り口ローレルが出っぱっていて出入りがしづらいが、現在修理を依頼している	